

訪問看護ステーション卯の郷

さくら市氏家 2650 番地



管理者
北條 美知 様
利用保険割合
医療保険：2割
介護保険：8割

利用者さんのことを真摯に考え、国際基準に則ったサービスの品質管理に取組む姿は、地域の医療機関のみならず地域の方からも厚い信頼が寄せられていると思えました。また、支援の「広がり」を意識した訪問看護は、地域での切れ目のない支援に繋がっていますね。(記者より)

施設のアピール

訪問看護ステーション卯の郷は黒須病院に併設されたステーションです。介護保険法施行以前の平成8年に設置されました。どんな状況の利用者さんでも、1回の訪問で1回は笑顔になってもらいたい、そんな思いから「One訪問、Oneスマイル」を目標に、活動を行っています。スタッフは、看護師・理学療法士・作業療法士があり、同じ事務所内には居宅介護支援事業所のケアマネジャーも在籍しています。

また運営法人の恵生(えいしょう)会全体として、ISO9001*を取得し、継続的な医療・介護サービスの質の向上を目指しています。

*ISO9001とは、品質マネジメントシステムに関する国際規格のことです。



スタッフは看護師、PT、OT、ケアマネの10名です。今回は、前列中央の管理者の北條さんにお話を伺いました。

連携している主な医療機関

黒須病院を始め、さくら市内(氏家地区、喜連川地区)の診療所、県内の大学病院、済生会宇都宮病院、がんセンターなどの医療機関と連携を図っています。

施設の役割や特徴について

「信頼・安心・広がり」を忘れずに、「信頼」関係を大切に法人の理念が土台となり、「安心」して在宅療養していただくこと、さらに訪問看護だけでは解決できないような困りごとがあれば、公的な制度や地域のボランティアの紹介をするなど、支援の「広がり」を意識して関わるようになっています。例えば難病の方がいらっしゃれば特定医療費助成制度を紹介したりします。私たちは利用者さんの困りごとに対応できるよう、各種支援制度について、日々勉強しています。



この訪問車でさくら市近辺の利用者さん宅を訪問しています。

心に残った患者さんとのエピソード

「近所さんの温かい声かけ」

その方は独居の60代の男性で、肝がんのターミナルと告知されています。猫を飼っていて、最期まで家にいたいと強い希望がありました。唯一の肉親である姉は遠くに住んでいて、いつかというときに頼れる親戚は近くにいませんでした。

私達は、点滴等の処置をするため週3回訪問し、全身状態の観察などを行っていました。少しずつ体が動かなくなると、ヘルパーさんに洗濯を頼んだり、仕事関係の知人が様子を見に来てくれたりしました。

それでも毎日誰かが見に来られるわけではなく、もしもの時を不安に思っていたあるとき、近所の方から「何か力になれることがあったら声をかけてくださいね。」と私たちに声をかけてくれました。それを聞いて、近所の方にも気にかけてもらえて有り難いな、この人らしい時間が過ごせているな、と感じました。

そんな地域の温かさに触れた経験から、さくら市で進めている住民主体の生活支援サービス(見守りや買い物支援など)は、住民同士で思いやりの精神を育む素晴らしい取組みだと思っています。

ケアマネジャーとの連携で思うこと

訪問看護は介護保険サービスで利用する場合と、医療保険で利用する場合があります。医療保険の場合は介護保険のケアプランには入らないので、ケアマネジャーさんとの連携は特に意識しています。

例えば、ケアマネジャーさんをおして、デイケアでの過ごし方や、ヘルパーさんのちょっとした気付きを共有することで、次の訪問のときに丁寧に観察でき、病状の変化を早期に発見することに繋がります。その人の生活を一緒に支えていくためには、介護と訪問看護の連携は大切だと思います。



事務所に飾ってある「南天九猿(なんてんくざる)」は、「難が転じて苦が去る」という縁起物で、利用者さんからいただいたそうです。コロナが収束して早く日常に戻りますように！